

## 教科目名 プロジェクト演習IV (Projected Exercise IV)

専攻名・学年：全専攻 2 年 (教育プログラム 第4学年 ◎科目)

単位数など：必修 1 単位 (前期 1 コマ, 学習保証時間 22.5 時間)

担当教員：高橋徹, 一宮一夫, 山田繁伸

## 授業の概要

特別研究の遂行には、論文作成能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力などが必須である。この教科では縮約練習などにより、論文作成の際に役立つ論理的な思考法や文章構成法を習得する。更に、実践的なディベート方式の授業により、自らの力で考え、表現できる能力を養成する。

## 達成目標と評価方法

## 大分高専目標(A1) (C1), JABEE 目標(a) (f)

- (1) 緩約練習を通じ、日本語による文章構成法を習得する。(小テスト、定期試験)
- (2) 漢字・送り仮名など、日本語の基本について再確認する。(小テスト)
- (3) 文章のパラグラフ化を理解し、論文を論理的に構成できる。(定期試験)
- (4) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築し、これを表現して討議を行うことができる。(ディベート)
- (5) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できる。(ディベート、定期試験)

回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1	[日本語表現] 「日本語練習帳」の解説、縮約練習の説明	教科書「日本語練習帳」の内容を理解する。特に、文章の構成力を身につける上で役立つ「縮約」の練習法について学ぶ。	【理解の度合い】
2 ～ 6	縮約練習、解説	新聞の社説など、与えられた文章について縮約を行う。縮約した文章は教員によって評価される。毎回、100点満点中80点以上を取ることが望ましい。	
7	「理科系の作文技術」の解説 パラグラフ化の練習	教科書「理科系の作文技術」の内容に触れる。特に、文章のパラグラフ化について学習する。  2～7回まで授業の最初に漢字などの小テストを行う。	
8	小テスト	縮約、漢字書き取りなどについて小テストを行う。	【試験の点数】 点
9 ～ 11	[ディベート] 解説、グループ分け、資料収集、 作戦会議、プレゼンテーション作成 (賛成・反対の決定はディベート直前に行うのでどちらの側でもディベートできるように準備する。)	与えられた複数のテーマについてディベートを行う。  学生は2～3名ずつの班に分かれ、それぞれのテーマについて2つの班が賛成派・反対派の立場となりプレゼンテーションおよびディベートを行う。ディベートの判定は、教員およびディベートに参加していない班の学生によって行われる。	【理解の度合い】
12 ～ 14	プレゼン、ディベート プレゼン、ディベート	9～11回まで、授業の最初に縮約練習をする。	
15	前期期末試験	小論文、縮約など	【試験の点数】 点
16	前期期末試験の解答と解説		

履修上の注意	縮約練習をする上で必要な国語辞典などを用意すること	【総合達成度】
教科書	大野晋、「日本語練習帳」, 岩波書店。木下是雄、「理科系の作文技術」, 中央公論新社。ディベート用プリント。	
参考図書	松本茂, 「頭を鍛えるディベート入門」, 講談社。	
事前準備学習	教科書の対応箇所を読んでおくこと。日常において理系の作文を行う際には、パラグラフを意識して作文する習慣をつける。文章を読む場合には、事実か意見かを意識しながら読む。	
関連科目	法学概説、経済学概説、哲学概説、歴史学概説、地域日本文学、卒業研究、特別研究	
総合評価	達成目標の(1)～(5)について、授業中の小テスト・縮約練習結果・取り組み状況(約70%)と定期試験(約30%)により総合評価する。	【総合評価】 点